

北海道社会保険病院だより

平成20年5月発行 第31号

産婦人科のご紹介

産婦人科主任部長 有賀 敏



産婦人科医は、いなくなるのか？という話題が頻繁に報道されるようになって大分日が経ちました。

実際、この間に札幌市内でも「分娩」を扱わなくなった総合病院は3ヶ所になります。

私が社保に来たのは2003年9月でした。天使病院時代に一緒に周産期医療に携わった澤田先生ともう一度仕事をしたかったからです。

一年が経ち、守谷先生が、がんセンターから戻ってきました。守谷先生とは三十数年前、市立小樽病院（樽病）で同じ先輩を師と仰ぎ、守谷先生の後のネーベンを引き継いだ経緯があります。

そして、この四月からKKR札幌医療センターの「母性医療センター長」酒井慶一郎先生を迎え、唯一の女医である佐々木瑞恵先生と4名体制で、人数はともかく、質的体制は整いました。

この間、小児科には北大から岡嶋先生が気鋭の小児新生児科医として着任し、数少ない「地域周産期センター」として機能の充実を図ってきました。

病院としても、岸院長をはじめとする皆様のご理解とご支援をいただき、NICUが3ベットから6ベットに増え、NICU、新生児病棟の改造をしていただきました。

加えて、産科病棟も分娩室の改造（LDR化）に伴う機能の充実が予定されハード面がまず体制を整えました。

今まではソフトが先行しハードが追いつかない感じであったのが、今度はハードに追いつけという、ありがたい状況になりました。

そのソフトの面ですが、なんとと言ってもスタッフの質とコミュニケーションが大切と思います。

患者さん、妊婦さんを中心にスタッフ間でどう連携をとるか、このために、週1回小児科医、小児科スタッフ、産婦人科医、産婦人科スタッフがカンファレンスを持ち種々の症例についてディスカッションを行っています。

また、産婦人科内でも、週1回スタッフ間でのカンファレンス、不定期ながら症例検討と文献的検討を行っています。

助産師と産科医の良好な関係は一步

進んだ「助産師外来」を目指して始めました。どう育つかは、妊婦さんをごり巻込めるかにあると思います。

札幌市を地域としてとらえるとき、分り易いのは豊平川のどちら側にあるのかだと思います。こちら側の社保としては約80万人を見据えた周産期医療を考えるべく、対外的には「豊平川産婦人科談話会」を年2回行い、地域の医療機関を通して地域の方々の力になれる様努力しております。

その結果、2004年には22例であった母体搬送が昨年は57例となっております。

若い医師の成長を示すこととして、佐々木医師は「重症子宮筋症合併妊娠6例」について発表し、注目をあびました。

このように、社保の産婦人科は多様な側面を持っておりませんが、中でも何が特徴か、と訊かれれば、迷うことなく「チームワークの良さ」と断言できます。

更に我々が十分にその能力を発揮できる協力体制が院内、特に麻醉科、手術室から頂いていることは特記すべきことと考えています。

これからも産婦人科を宜しくお願致します。

外来紹介

看護科長 沖野 光代

当院外来看護師は、13の診療科と中央処置室、内視鏡室、放射線検査、透析室、健康管理センターを担当しています。

5つの診療科は病棟看護師が担当しているため、情報を共有し、協力体制をとっています。

今年の1月から電子カルテ導入となり、新システム体制となった際、外来で一番変わったのは、「総合問診ブース」が開設された事です。

今まで各科外来を初めて受診する方や、予約外で症状が違う方へ、「問診」の紙に記入してもらったり、直接話を聞いていた事を各診療科へ行く前に「総合問診ブース」で看護師が話を聞き、電子カルテに入力してから案内をしています。

また、何科に受診してよいのか解らないという方への受診相談にも対応しており、看護師と最初に相談が出来てよかったというご意見もいただきました。

一方、3つのブースで多いときには午前中に100名近くの対応をするため、待ち時間が発生している場合があります。現在、待ち時間が短縮されるように日々検討を重ねておりますのでご了承いただきたいと思

います。
外来看護師は、当院へ受診に来られた方の「安全」「安心」をモットー



1月より新たに開設された総合問診ブース



に、心配り、心配りが出来るよう努力しています。
時には厳しいご意見も真摯に受け止め、励ましのお言葉を原動力に変え奮闘しておりますので、どうぞ気軽に声を掛けてください。

医療相談室は、
なにをするところ？

医療相談室係長

(ソーシャルワーカー)

佐藤 奈津子

医療相談室では、入院・外来の患者様やご家族から、療養生活で起こる様々な困りごとのご相談にのらせていただいております。

例えば、「医療費の支払いはどうすればいいの?」「退院してから元のように暮らせるか不安で...」「私の病気で何か利用できる制度があるかしら?」「車椅子はどこで手に入るの?」「自宅で家族の介護ができるかどうか心配です」「他の病院や施設の利用方法を教えて欲しい」など。

お元気なときにはお一人で解決できるような生活上の問題も、病気という予想外の事態が降りかかることで、悩み、迷われた経験があたりではないでしょうか。

当院には生活上のご相談をうけたまわる専門の社会福祉士(ソーシャルワーカー)が3名配置されており、皆さまの治療や療養生活が順調に運ぶようにお手伝いさせていただきます。

後期高齢者医療制度が始まり、制度やサービスはますます複雑に、わかりにくくなっています。

「誰に相談したらいいのかしら」とお困りのことがございましたら、どうぞお一人で悩まずに、ソーシャルワーカーへお気軽にお声掛けください。皆様からご相談いただいた内容は秘密厳守いたします。

場所 / 外来棟正面玄関横

相談時間 /

月曜日～金曜日 9時～17時

ご相談の際は直接医療相談室にお越しください。入院中の患者様は病棟看護師にお話くださればお部屋まで伺いいたします。

お電話でのご相談も承ります。

予約は必要ありませんが、他の患者様とご相談中はお待ちいただく場合もございますので「ご承ください」。

なかのしま健康フェアのお知らせ

福祉機器・介護用品の展示、健康相談などを行います。

日時：7月10日(木)～11日(金)
病院1階グリーンモール
7月12日(土)
サンビュー中の島にて夏まつりを行います。

